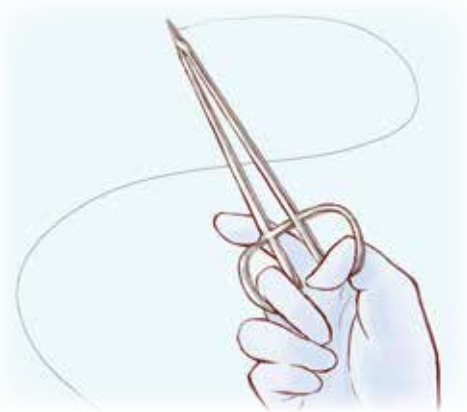
指（ゆび）

レベル初中級（しょちゅうきゅう）

【原作（げんさく）】江戸川乱歩（えどがわらんぽ）
【簡約（かんやく）】佐藤（さとう）ももみ・中野（なかの）沙耶（さや）・藤澤（ふじさわ）舞（まい）
【挿絵（さしえ）】藤澤（ふじさわ）舞（まい）



友だちは手術をして、病院のベッドで眠っていました。

しばらくして、目を開け、私の顔を見ました。

右手に厚く布をしているので、手首が切られたことには

気付いていません。

彼は有名なピアニストです。もう右手がないことは、

とても大きな問題でした。

手を切った人は、彼のことが嫌いなピアニストだったかもしれません。

彼は暗い夜の道で、知らない人に、急に、右手を切られて倒れました。

それは、私が働く病院の近くで起きたことでした。そのため、彼はこの病院に運ばれて、私は一生懸命、彼を助けようとしました。

「あ、あなたが僕を助けてくれたんですね。ありがとう…。酒をたくさん飲んでしまって。暗い道で、誰か分からない人にやられたんです…。右手ですね。指は大丈夫でしょうか?」

「大丈夫ですよ。腕を少し切られましたが、すぐに治りますよ。」

私は、彼の悲しむ顔を見たくありませんでした。ですから、怪我がもう少しよくなるまで、彼がピアニストではいられなくなったことを、言わないようにしようと思いました。

「指もですか?指も、前のように動きますか?」

「大丈夫ですよ。」

私は逃げるように、彼のいる部屋を出ました。近くにいる看護師にも、「しばらく手がなくなったことは言わないでください。」と強く言いました。看護師は病院にいて、怪我をしたり病気になったりした人を世話します。そして医者の手伝いもする人です。

それから二時間くらいして、私はまた彼の顔を見に行きました。

彼は、少しだけ元気になっていました。右手がないことにはまだ気付いていません。

「痛いですか?」

私は、彼の目を見ながら顔を近づけて、聞いてみました。

「さっきより痛くなくなりました。」

彼はそう言って、私の顔を見ました。そして、ベッドに寝たまま、ピアノを弾くように左手の指を動かし始めました。

「右手の指も動かしていいですか？新しい曲を作ったので、それを毎日、一回弾きたいのです。」

私は驚きましたが、「ちょっと待って。」と言いながら、すぐに彼の右の腕の上を指で押しました。そこを押すと、指がなくても

あるように感じるからです。

彼は左手の指を、楽しそうに、たくさん動かしていました。そして、

「ああ。右の手は大丈夫ですね、よく動きます。」

と言いながら、彼は曲を弾き続けました。

私は、彼のことを見ていられませんでした。私は、看護師に彼の腕を押さえてもらい、静かに部屋を出ました。

そして、手術室の前を通りました。すると、もう一人の看護師が、その部屋の壁にある棚を見て立っていました。

彼女の様子は普通ではありませんでした。顔の色を悪くして、大きく開けた目で、棚の上にあるものを見ていました。

私は気が付いた時には、部屋に入り、その棚を見ていました。

そこには、彼の手が入っている大きなガラスのビンがありました。

それを見ると、私は驚いて動けなくなりました。

ビンの中で、彼の手が、いえ、彼の五本の指が、生き物のように、動いていました。

子どものような小さい動きでしたが、たしかにピアノを弾くように動いていました。

やさしい日本語で読む日本文学
『夢十夜』『指』

2023年3月1日発行
発行　宮城学院女子大学　学芸学部　日本文学科
印刷　株式会社 フロット

許可なしに転載･複製することを禁じます。